

歴史街道

2012年10月号（9月6日発売予定）

総力特集 軍略の天才・楠木正成

奈良県の史蹟桜井駅址に駐日イギリス公使パークスが「楠木正成の誠忠に対し、一外国人として賛嘆を惜しまない」という賛を寄せた記念碑が建てられています。建立されたのは明治9年。パークスは日本を理解するために歴史的人物を辿ろうとしていました。当時のさまざまな人々の話を聞き、パークスが第一等の人物として理解したのが楠木正成であり、実際にパークスは正成ゆかりの地をたびたび訪れたりしていたのです。

この事跡を聞くだけでも、幕末から明治維新时期に、いかに楠木正成が高い評価をされていたかがわかります。そればかりではなく、同時代の人々からさえ、楠木正成は高い評価をされていました。それは、足利側の歴史観を記した『梅松論』でも同情的な記述をされていることからわかります。

なぜ、これほどまでに高い評価をされるのか。それは、彼が飛びぬけた「軍略の天才」だったことにあります。長いものに巻かれず、組織人の弱点を衝き、寡兵よく大軍を破ってついには幕府を滅亡へと追いやった姿に、古来、多くの人々が心からの喝采を送ってきたのです。

その一方で、楠木正成は断固として後醍醐天皇と南朝への忠義を貫き通し、彼の子孫も南朝を守り続けます。歴史を変えるほどに「痛快な突破力」を示す稀代の軍略家にして、あくまで義を貫き通した男。まさに「日本武士の鑑」のような人物こそ、楠木正成なのです。

しかし戦後、明治以来の歴史観の「反動」から、楠木正成はほとんど注目されることがありません。現在では「悪党」というイメージが広く流布されています。「悪党」論には一定の歴史的真実が垣間見られるのかもしれませんが、そのような見方だけでは、「日本精神の真髄としての武士道」を理解することは不可能です。

今回の特集では、痛快無比の稀代の「軍略家」として、また、「武士道」を切り開いた人物として、いま一度、楠木正成に光を当てたいと思います。

【構成案】

- ①総論：痛快無比の軍略の天才
- ②謎の出自（土豪？ それとも静岡からの進駐軍？）と後醍醐天皇との出会い
- ③500の寡兵で数万の幕府軍を攪乱す——赤坂城の戦い
- ④良将は戦わずして勝つ——5000の篝火の正体
- ⑤決戦！千早城
- ⑥桜井の別れと湊川合戦
- ⑦「武士の誉れ」——日本の精神の原型としての「正成」

第二特集 東京駅歴史秘話

【連載】①駐米大使グルーの昭和史 ②昭和なスケッチ 他

※タイトルおよび内容は、一部変更になることがあります。

申込締切：7月26日(木)

原稿締切：8月10日(金) ※データ入稿、投込校了

注 意：JMPAカラーでの入稿をお願いいたします。

(ご参考) 4C1P 50万円、1C1P 30万円 ほか

発行部数：91,225部(2012年印刷証明)

PHP研究所 広告本部 TEL 03-3239-6231 / FAX 03-5210-7388